

## 2020年度 米子北斗中学校・高等学校 学校自己評価表【分掌・教科・学年】

<b>学校ビジョン</b>	次世代リーダーの育成
○『学力の伸長』 ・難関大学, 医歯薬系大学の合格 ・体系的カリキュラム	
○『主体的行動力の育成』 ・探究学習の推進 ・プレゼンテーション力向上	
○『協調性を高める』 ・異文化, 多様性の理解 ・いじめのない学校	

<b>校 訓</b>
自学自律
<b>本年度の学校目標</b>
個々を伸ばす 6+α

【評価基準】 達成目標に対する達成状況を数値化(割合)し、100%~80%⇒A 80%~60%⇒B 60%~40%⇒C 40%~20%⇒D 20%~0%⇒E とする

### 【分掌】

	2020年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2019年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
<b>総務部</b>	PTA活動は役員と連携が取れており、問題はない。本来の学校総務としての活動ができていない。	■各分掌・学年の活動をサポートし、それぞれが充実した教育活動に望めるように協力する。	■各学年の探究学習において、外部講師派遣や、研修旅行の外部折衝など、学年団の補助を行う。 ■総務部員が他の分掌の補助人員として、各分掌活動への協力を進めていく。	■中学2年と中学1年の探究学習において、SDGsをテーマにしたオンライン授業を企画・運営することができた。しかし、多くの学年や分掌で教育活動が制限されているのでまだ、サポートは不十分な状況である。	<b>C</b>	■探究学習に向けた各学年の活動に積極的にサポートしていく。 ■総務部員が他の分掌の補助人員として、各分掌活動への協力を進めていく。			
<b>教務部</b>	自学自律は学力が主軸であることを強く意識し、授業改革、学力強化を継続していく必要がある。	■授業改善により、学力強化につながる学習活動を活性化させる教務活動を実践する。(校外外の調査・模試・学力調査、進路結果等により検証する。)	■授業改善の方法として、PDCAサイクルを学習指導に取り入れる。学習活動(教科・行事)にも評価(ルーブリック)を作成して、生徒へフィードバックしていく。 ■e-ポートフォリオにつなげるために、各種の学習・活動の振り返り指導をおこなっていく。	■コロナ禍の中で、授業改善の取り組みをeラーニングを取り入れるように研究・検討している。ICT(ブレンドやムードル等)を活用していくことで、調査・分析し、より早い対応をできるようにした。	<b>B</b>	■遠隔授業も含め、普段の授業にICTを効率よく活用し、PDCAサイクルにも取り組んでいる。 ■各種の学習活動にブレンドの機能を活用して、振り返り指導等の効率を上げる。			
<b>進路指導部</b>	中学生の進路意識、関心の向上がまだまだ不十分であり、高校での進路目標決定の遅れにつながっている。	■要望に見合った進路情報の提供と、キャリア教育の充実を促す。	■大学・予備校・模試会社等の説明会、分析会等に積極的に参加し、情報収集に努める。適切な機会に適切な情報を提供する。 ■講演会、説明会、懇話会等を企画し、総合学習の進路探求に役立つ情報提供に努める。	■コロナ禍の為、大学入試センター説明会の中止に加え、地元大学の進学説明会、模試会社の分析会等が一部WEB開催となったが、適宜情報収集できている。 高3の面接セミナーは大阪からの講師招聘の為中止とした。	<b>B</b>	■共通テスト前の分析会等に積極的に参加し、適確な情報提供に努める。 ■模試会社の担当者に時機に見合った情報収集・取りまとめを適宜依頼し、タイムリーな情報提供に努める。			
<b>生活指導部</b>	問題行動の件数は少ない。また、遅刻者指導の対象となる生徒も少ない。	■他者に対する関心と敬意を抱くことで、道徳心を育てる。(倫理観の育成)	■教員による「さわやか挨拶運動」を実施する。 ■朝終礼において担任から挨拶の意義を説く。	■教員に対して「さわやか挨拶運動」に関するアンケート調査を実施。「教員がさわやかな挨拶を実行できているか」という5段階の自己評価で、4または5の評価をつけたのは回答者のうち、55%だった。	<b>C</b>	■アンケートの実施回数を増やし、教員の挨拶に対する意識を高める。			
<b>保健管理部</b>	保健室の利用状況は改善されてきた。	■保健室利用規定を徹底し、生徒の健康管理に努める。感染症が拡大しないよう努める。	■保健室利用規定を春のホームルームで確認する。 ■コロナ関連の情報を収集し、校内でできる対策をとる。(アルコール消毒の設置、換気など)	■保健室利用者は減っている。また、各教室、各階にアルコールの設置ができた。非接触型の体温計も揃えることができた。	<b>B</b>	■悩みを抱える生徒に関してはSC・SSWと連携を取りながら対応をしていく。 ■引き続き校内のアルコール消毒を行うことと、うがい・手洗い換気の徹底を行い、インフルエンザを含めて感染症の予防に努める。			

	2020年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2019年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
生徒会指導部	北斗祭体育の部では、生徒会役員と、執行委員が協力して企画運営を行った。	■北斗祭等の学校行事において、生徒がより主体的に考え活動出来る場面を増やす。	■代議員会、執行委員会等の会議を通して、多くの生徒の意見を反映できるような企画を立案させる。 ■各行事の役割分担を明確にすることで、生徒各自に行事を牽引する責任感を持たせる。	■北斗祭体育の部では、企画立案から運営まで生徒主体で出来るよう、執行部で企画、執行委員会で立案、代議員会で討議・決定の手順をふむよう意識させ、ある程度は実行出来た。 中高生徒会長・副会長は、自分たちの役割を責任を持ってやり遂げた。	A	■執行委員会・代議員会は、放課後の開催が難しい面があり、昼休憩に行っていたが、15分程度の時間しかとれず、深い議論に至らない事が多かった。 会議時間をある程度とれるような計画が必要である。			
人権教育部	臨時休校の影響で予定していた講演会は中止となったが、PTA人権教育部の協力により、研修会の参加や広報誌の発行など連携しながら行った。	■PTA人権教育部と連携し、人権教育の研修会や講演会を企画・実施する。	■PTA人権教育部と人権教育部教員の役割分担を、相互に確認する。 ■PTA人権教育部の方に、関係機関が主催する研修会への参加を依頼する。	■新型コロナウイルス感染対策の観点から各行事についてPTA人権教育部と協議を重ね、10月の講演会は中止となった。「PTA人権部だより第76号」は予定通り発行した。	B	■引き続き、PTA人権教育部との連絡を密にとる。 ■研修会等の情報を迅速に提供する。			
事務部	来訪者及び電話の対応、その他対外的にまだまだ改善出来ることがある。	■迅速かつ丁寧な言葉遣いや対応を心がける。	■慌てずに落ち着いた対応をする。 ■電話3コール対応。電話の保留時間の短縮のため適切な場所に繋ぐ。	■保留時間は短くなりつつある。しかし職員室へ繋がった後の保留が長い。	B	■普段から学校のスケジュール、教職員の動向を確認しておく。			
特別支援委員会	LD専門員・SC・SSWと連携をとりながら個性や特性にあわせた支援を考え、実践できるようになってきた。	■特性のある生徒に対して全職員統一した支援を行う。	■指導計画に沿って個々の情報を共有する。 ■専門家から助言を受けたことを全職員で共有する。	■指導計画については、定期的に情報共有できている。	B	■職員会議後など、生徒の細かい動向を随時共有する時間を持つ。 ■LD専門員などに協力を仰ぎ、助言していただく。			

【教科】

国語	各自が研修会に参加し、教科内でその情報を共有することにより、共通テストと新課程の研究を行っている。	■言語活動及び思考力、判断力、表現力に重点をおいた授業実践と、新課程の研究を行う。	■模試の問題や共通テスト対応問題集を分析研究し、授業にその要素を取り入れる。 ■教科指導に関わる研修に参加し、情報を共有する。	■記述問題における表現力向上をねらいとした演習を行っている。	B	■教科会で授業実践について情報交換する。 ■各自新課程の研究に努め、教科内で共有する。			
社会 地歴 公民	主権者教育に関し、模擬投票を実施できなかったという課題が残った。	■高校生に対する主権者教育を充実させる。	■現代社会の授業を中心に、政治制度に対する理解を深める。また、今年度版の「私たちが拓く日本の未来」が配布され次第、学習を進める。 ■外部機関と連携し、主権者教育を実施する。10月を目処に模擬投票ができるよう、計画を進める。	■10月の主権者教育(選挙出前授業)に向けて、準備を計画的に進めている。また、公民の授業においても、選挙制度に関する単元を中心に掘り下げて学習を行うことで、生徒は主権者としての意識を高めることができている。	B	■授業進度に合わせて、高校1年生を対象に、「私たちが拓く日本の未来」などを教材として事前・事後学習を行う。 ■鳥取県及び米子市選挙管理委員会の担当と綿密に打ち合わせをして、内容を詰めていく。			
数学	2021年度入試から始まる大学入学共通テストに向けて、試行問題の研究・分析をおこなった。	■大学入学共通テストおよび国立大学2次試験への対策を十分におこない、得点力を身に付けさせる。	■共通テストで出題が予想される対話形式の問題や実生活への利用の問題については重点的に演習していく。 ■複数の解法について問われる問題も出題が予想されるので、授業でも別解を紹介したり生徒に考えさせたりする。	■高校3年の授業では、解答の過程だけでなく問題を解くための方針についても答えさせたが、まだ新出の会話等長文をとるような問題の対策が十分であるとはいえない。	C	■マーク問題の練習を重ねるとともに、長文問題への対応も徹底し、共通テストに向けての実戦力を高める。 ■別解研究が共通テストだけでなく、国立大学2次試験にもつながるように指導していく。			

	2020年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2019年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
理科	実験など授業の状況によっては、活発な意見交換を実施することができた。また、ICTを活用しての授業もある程度実施することができた。	■中学生は自分でテーマを決めて課題研究に取り組む姿勢を育てる。	■長期休業中にICT(タブレット等)を使って、生物分野の身近な植物、動物の写真や動画を集め、集約して発表させる。 ■グループ活動を通して、お互いの考えを発表し、生徒同士で評価させる。	■夏季休業中の課題の1つとして、身近なものを題材とした写真を撮り、moodle(学校のクラウド)に保存をさせた。そのデータを授業でも使用した。	B	■ICTを利用して課題研究ができるように題材や目標を設定させていく。 ■今後は普通の授業にもより多くICTを利用した展開をしていく。			
英語	ALTとの授業、パフォーマンステストを行うなど、英語コミュニケーションの意欲を喚起する。	■生徒の英語コミュニケーション能力を高める。	■ALTと協力してパフォーマンステストを実施し、生徒の英語運用力を高める工夫をする。 ■英検の積極的受検を促進及び対策、GTECの対策を行い、英語を話す力の向上を図る。	■パフォーマンステストは各学年随時実施している。実施の時期、頻度は見直す必要がある。英語民間試験対策も授業内外で行い、英語を話す力の向上に努めた。	B	■パフォーマンステストは引き続き、英語科全体で連携、情報共有を行い、実施する。 ■引き続き、英語民間試験対策を授業内外で実施する。			
保健体育	安全に留意した体育の授業を進めることができてきた。また、運動が得意でない生徒も積極的に授業参加ができるようになってきた。	■授業の中で生徒自らが考える主体的な活動を増やし、思考力・判断力を養う。	■グループ活動を多く取り入れ、課題を見つけ、話し合い、解決する能力を高める授業展開をする。 ■ダンスの授業において、グループで企画、練習などを行い、発表する場を設ける。	■全学年において、パレーポールのグループ活動の授業を導入した。試合形式の授業では、進行や運営を主体的に取り組みさせることができた。しかし、話し合う時間はもう少し多めに取ればよかった。	B	■様々な種目に合わせて、主体的に取り組むことができるように、話し合う時間を設定する。 ■ダンスの授業において、グループで企画、練習などを行い発表する場を設ける。			
技術家庭科	日常生活において、ものづくり、衣・食・住などに関する体験に乏しい。	■学習活動や実習で得られた知識や体験を日常生活に生かしていけるようにする。	■プレゼン発表や調理実習をグループで実施し、方法、理由を考えさせる機会を設ける。	■プレゼン発表や調理実習、エコバック作成、野菜の育成観察を通して、理由を述べながら自分の意見を説明することができた。	A	■より深い学びになるように、事象の説明、自分の意見やその理由を述べる機会を設ける。 ■			
情報	ICTを活用して自分の意見等を伝える技術を十分取得していない。	■目的に応じて適切に取得した情報を、相手に伝わるようプレゼンできるようにする。	■プレゼンを通し、情報の収集・判断・表現・処理・創造・発信・伝達という流れを体験させる。 ■機器の基本的な操作技術を習得する。	■iPadのkeynoteを用いて個人で自分の進路に関するプレゼンテーションを実施した。ただし、機器の基本的な操作技術については生徒によってばらつきがあった。	B	■個人活動ではなく、グループ活動としてプレゼンを実施する。 ■情報機器や専門的なアプリケーションに触れる機会を増やす。			
音楽	ほとんどの生徒があらゆる演奏の場面において、主体的に音楽を表現するということができなかった。	■音楽の様々な側面を知覚し、曲に対する自分なりの考えを持ち、それを音や音楽によって伝えることができるようになる。	■様々な国・年代・ジャンルの音楽を鑑賞し、その音楽についての理解を深める。 ■歌唱の際、その曲に対する自分なりの考えや表現法を各生徒にプレゼンテーションさせる。	■生徒が音楽で表現をする際の一番の方法は「声での表現」だが、現状では人前で歌うことができないので、表現の幅も狭まってしまっている。	C	■創作など、演奏以外の表現活動を行う。 ■音楽のプレゼンテーションを行う。			
美術	個々の題材については、学習内容を深めることができたし、題材間のつながりまで吟味し、再構築していくことがある程度出来た。	■題材間のつながりまで吟味し、ある程度再構築出来た学習内容を考察しながら授業を実践してみる。	■ある程度再構築出来た学習内容を再度考察していく。 ■再考察した学習内容で授業展開してみる。	■再構築した学習内容を考察しながら授業実践が出来たかという点、あまり出来ていない。	C	■学習内容の再考察をしていく。 ■再考察した学習内容で授業展開を実践していく。			

【学年】

	2020年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2019年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
高校3年	志望校へ向けた学習への取り組み具合が様々である。	■第1志望進路を目指した最大限の努力と、真摯な学習活動を継続させる。	■目標値を自覚させ、そのためにどのような努力をするべきかを明記させた上で、定期的に振り返りをさせる。 ■模試結果から補習分野を確認し、個人面談を通して自主学習の時間を持つよう指導する。	■殆どの生徒が第1志望進路を定め、それぞれが合格に向けた課題に取り組んでいる。	B	■個人面談を通して現状を客観的に捉えさせ、合格までの学習活動のプランを立てるよう指導する。 ■模試受験後の振り返りによって自身の課題を明確にし、粘り強く取り組むよう指導する。			
高校2年	志望進路を定め、それにむけて探究する力が弱い。	■探究学習によって課題発見及び課題解決に繋がる力を身につける	■探究学習の各場面でどのような力を身につけるか(目標)を明確にした上で活動させ、定期的に自己評価させる。 ■積極的に情報収集を行うことを指導し、その活用につなげる。	■冊子『課題探究メソッド』を使い、課題探究の概要の学習を行った。PCを通した情報収集力は向上しつつあるが、人を通した情報収集力はまだまだ不十分である。	C	■今後はテーマ決定を行い、個人探究へ入っていく。			
高校1年	探究学習の態度は身につけてきている。	■探究学習を通して進路選択をさせる。(LHR、面談、ゲストを行う)	■進路探究に結びつけるため、自分たちで調べる力を身につけさせる。(LHR、面談、ゲストティーチャー等) ■興味のある大学の資料を取り寄せる。可能ならば大学見学、オープンキャンパスへの参加を促す。	■文理選択を決定している生徒が多くなってきている。探究学習を通しての進路選択は継続中である。	B	■調べる力をつけるためにHRや面談を活用していく。 ■今年度はオープンキャンパスへの参加は厳しいので大学について調べさせ、資料を取り寄せる。			
中学3年	大山宿泊研修及び探究学習成果発表会において、企業や事業所の課題解決につながるアイデアを具体的に提示することができた。	■探究学習を通して、異文化理解を深めるとともに将来の進路決定につなげる。	■事前学習において、各班でテーマを設定し、ある程度の完成イメージと行動計画を立て、現地でのフィールドワークにつなげられるようにする(海外研修)。 ■課題研究メソッドを活用し、テーマ設定、仮説の設定、調査・実験の実施を計画的に進める(個人探究)。	■個人探究を中心に、将来を見据えた研究テーマを設定し、計画的に実施している。加えて、ビブリオバトルなど新たな試みにも取り組んでいる。	B	■海外研修に向けた学習として、例えば社会科の授業で異文化理解につながる歴史・文化学習を行うなど、次年度にむけた意識付けを継続していく。 ■個人探究に関しては卒業論文作成も視野にいれながら、今後も計画的に進めていく。			
中学2年	探究学習を通じて、地域の課題について調べ、発表をすることができた。今後は、より主体的に学習に取り組んでいきたい。	■探究学習によって、地域について深く考察し、課題解決に向け、主体的に行動しようとする意欲・態度を身につけさせる。	■フィールドワークや職場体験を実施することで、地域の問題を自分自身の問題として捉えさせる。 ■プレゼンの資料作成や発表に取り組むことで、自分達の学習成果をまとめ、発信する力を身につけさせる。	■「衣服」をテーマに、社会・地域でおこなっている問題について、SDGsの視点から学ぶことができた。SDGsについて、生徒によって理解度にばらつきがあることが課題である。	B	■冊子『課題研究メソッド』などを活用しながら学習を進めていく。 ■様々な教科でSDGsとの関連を意識した授業を展開するなどして、理解の促進をはかっていく。			
中学1年		■あいさつ、時間を守る習慣を身につけさせる。	■始業・終業のあいさつは必ず椅子をしまい、姿勢を正し、学級委員長・副委員長はきちんと気をつけがきているかを確認させる。 ■教員が早めに教室へ向かい、朝礼・授業でのチャイム席を守るように指導する。5分前から朝読書を開始するように指導する。	■毎回椅子をしまい、あいさつが出来ているが、姿勢が崩れたり、授業に入る姿勢が整っていない生徒がいる。授業へは早めに着席ができていない。朝礼開始5分前からの読書が出来ていない。	B	■授業開始のあいさつは集中して授業に入る為の姿勢を作っていくためであること再度確認をし、指導を続ける。 ■教員は早めに教室に行くことを心がけ、また、生徒同士が声を掛け合うよう促す。			